TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

シリーズ 詩篇 生きることを考える 神を信頼する
詩篇 18 篇

2022 年 9 月 3 日&4 日
ジェシー セザリオ 牧師

オンラインで礼拝されている皆さん、TBC 三郷、TBC ウェストトウキョウ、スヴァ・バプテスト教会、トンガ・バプテスト教会の皆さん、こんにちは。主なる神と救い主のイエス・キリストを信頼した見返りがありますように。

はじめに

物語は私たちを虜にします。誰であろうと、どこで生まれようと、人は皆素晴らしい物語が好きです。最高の物語には、人が経験しなければならない葛藤や試練が描かれています。でも上手く行きそうになくても、物語は勝利で終わります。問題は「私の手に負えなかった。もう少しで打ちのめされるところだった。私がここにいるのは奇跡だ。でもやり遂げたのだ」と誰かが言うときの興奮は、何にも代えられません。

ここで注意してほしい事があります。あなたが克服した問題が大きく、困難であればあるほど、神への信頼や神に向かう気持ちが大きいということです。そして神が、「あなたには出来ると言ったでしょう。私には全て分かっていました。ずっとあなたの傍にいました」と言うとき、更なる栄光を手にするのです。誰もが自分の人生に奇跡が起きることを願っています。それは自分の人生に神の力が及ぶことを望んでいることを意味します。

でも私は、多くの人は神が私たちに良いことを望んでいるだろうかと疑っているのを知っています。私たちは、神が自分の繁栄することや、試練と葛藤に打ち勝つことを望んでいると言うのが怖いのです。まるで神の恵みには繁栄や勝利はないかのように。または自分は十分でない、選ばれていない、資格がない、あるいは自分にはその権利がないと思っているかのように。

聖書には、神はあなたが失敗することを望んでいるとも、必要としている反対の物を与えるとも書いてありません。あなたがたの誰が、パンを欲しがる自分の子どもに、石を与えるだろうか。(マタイによる福音書 7 章 9 節)

ダビデはとても多くの失敗をした、ただの人でした。これには家族に対する失敗、道徳的な失敗、リーダーとしての失敗などがありました。でもダビデはあらゆる困難にもかかわらず、イスラエルの王になりました。彼の名は今もイスラエルの国旗のシンボルとなっています。

詩篇 18 篇はとても特別な詩編です。実は聖書に 2 回出てきます。1 回目は詩篇集、2 回目はサムエル記下 22 章の彼が死ぬ直前です。彼を思い出させる逸話、つまり逆境での勝利や彼の死についても書かれています。これは聖書の中で最も長い話の一つです。ダビデと彼の子孫の賛歌のようなものです。ダビデは救い主である神との関係、彼が経験した試練や葛藤について話していますが、それだけではありません。この後の第四の意志で私たちが今日人生で勝利するために必要な彼の力について見ていきます。

この意志はすべて、詩篇の中の「(必ずする(I will)」という動詞から引用しています。ダビデはこの言葉を 4 回しか使っていません。

1. 私は信頼する(2 節)
2. 私は呼び求める(3 節)
3. 私は愛する(1 節)
4. 私は感謝する(49 節)

まるでダビデが、何があろうとも「私はします」「私は神を信頼します」「私は神を呼び求めます」「私は神を愛します」「私は神に感謝します……何があっても!」と言っているようです。

私は「~するつもりだ(gonna)」という言葉を使うのが好きです。この言葉には時間を超越した本質があります。だから、この言葉について考えてみたいと思います。

質問:私にもダビデのような勝利に満ちた人生を送れるでしょうか。

最初の意志:神を信頼する

2 節「主はわが岩、わが城、私を救う方。主よ、わが力よ、私はあなたを慕う。」

信頼は礎です。人が行動したり、何かを思い切ってやるには、まず信頼がなければなりません。つまり、成功したり実現したりすると信じられなければ、前には進めないのです。もし 50 階建ての高さの橋を渡っていて、「いつ壊れてもおかしくありません」という標識があったら、1 歩も進まないでしょう。信頼がなければ、失敗が怖くて動けません。特に、問題が大きい場合はそうです。障害が大きいほど、強い恐怖心が沸いてきます。恐怖は人を静止させるのです。だから、何よりも大きな存在である神を信頼しなければなりません。神は全ての礎であり、全知全能だからです。

私が小学生だった時、教会の日曜学校かどこかであるポスターを見ました。それは、レベルを測るサインで、計測の線がついていました。下は0で始まっていて、私の目はまずそこに留まりました。そこから上へ見ていくと途中に「あなた問題は 0 と神の間のどこですか」ということが書かれていました。神は一番上でした。とても簡潔で、真実を示しています。

ダビデはどれ程大きな問題を抱えていても、神を心底信頼していました。ダビデは同じ事を言っています。詩篇 18 篇 31 節(英語版30節)「神、その道は完全であり主の仰せは練り清められている。主は御もとに逃れる者すべての盾。」すべての者という言葉に注目してください。すべてとは誰でしょうか。誰も彼も、です。

エレミヤ書 29 章 11 節の文脈や状況を学ぶとき、私はよくこの聖句は現代の人たちにはそぐわないのではないかと考えます。「あなたがたのために立てた計画は、私がよく知っている――主の仰せ。それはあなたがたに将来と希望を与える平和の計画で

あって、災いの計画ではない。」この聖句の「あなた」とは私のことでしょうか。神の民が困難や苦しみを抱えているとき、神のご性質は今と同じだったと信じています。私が苦しんでいるとき、私が信頼しているその同じ神様が、私のことを思い、恵みによって勝利を与えてくれるのです。だから、私たちはこの聖句の「あなた」であると言えるでしょう。

重要なポイント：人生の恩恵は全て、神を信頼する者を憐れむ神の恵みによってもたらされます。

信頼が全てなのです。どんな状況でも下を向いたり、人生における神の力を制限してはいけません。それは全知全能の神に対する信仰の欠如だからです。心配するというのは、自分のやり方を神のやり方より高く置くことです。神の計画は分かりません。あなたには試練によってどんな良いことが起こるか、あるいは起こったのか分からないのです。大切なのは、神を信頼して、最後までやり遂げることです。失敗や自分が今していることが無意味だと考えること、自分の人生は詰まらないという考えは、神を信頼し、神や神の計画に集中するときはいつも抑えられています。

ダビデはこの法則をエレミヤ書が書かれる 500 年、そしてイエス・キリストが来る 1000 年以上前に知っていました。彼は聖書がほとんど書かれていない時から、聖書的な人間だったからです。

私の聖書は 1512 ページあり、サムエル記上とダビデの物語は 295 ページ目から始まっています。つまり、ダビデは聖書が教えている 20%のことだけを頼りに生きていたのです。それなのにイエス・キリストが来る前に、誰よりも神を信頼していました。

ダビデは神の事だけを考えていました。彼はまず神を信頼しました。そして神を呼び求めました。神が自分の人生に働いていることを視覚化しました。神の素晴らしさを他の人に伝えました。昼も夜も神の事を熟考しました。そして何よりも、神を愛しました。ダビデは人生は自分のためではなく、すべて神のためにあることを知っていました。ダビデの資質は、私たちも見習うべきです。そしてその始まりは信頼です。もしあなたが信頼しなければ、行動できないし、行動しないことを覚えておいてください。だから最初の意志は「私は、そのやり方の全ての段階において神を信頼する」です。

第二の意志：神を呼び求める

4節「ほむべき方、主に呼びかけると私は敵から救われる。」

あなたが主を呼び求めなければ、神は答えることができません。あなたは信頼を示して、神を呼んで待つことで行動を起こさなければなりません。神を呼び求めることと、神を信頼することは、密接に関係しています。それは単に主が傍にいて、全ての物事の統治者だと信じることではありません。神を信頼するということは、神がどのような方で、何をするのかを愛することでもあります。これは、神の注意を引くために近づくうえで重要な事です。

重要なポイント：神は私たち一人ひとりの命の創造主であり、すべては神の目的に従って起こっています。

お分かりのように、神は私たちの人生を書いています。彼が始まりと終わりの著者であり、全知全能の神なのです。でも私たちは自由に生きて、行動することができます。使徒言行録 17 章 28a には、「私たちは神の中に生き、動き、存在しているからです。」とあります。

なぜなら神とあなた以外は誰もあなたの物語を書けないからです。あなたの決断が、神があなたの人生のどれほどの著者になるか、そしてあなたが神を呼び求めるとき、神がどれだけあなたに報いてくれるかを左右します。

重要なポイント：神は聖なる神であり、完全に正しい方です。神と関係を築くためには、正しい方法で神に近づく必要があります。

ダビデはこの事を知っていたので、マタイによる福音書 6 章 33 節の言葉を守っていました。「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものはみな添えて与えられる。」

神の義を求めることが鍵なのです。そのためダビデはこの詩篇の 20 節と 24 節の 2 回、義であることの大切さ繰り返しています。それだけでなく 24 節は詩篇のちょうど真ん中にあるので、神がどれ程あなたを助けたいと願うかを決める最も重要な事であることを強調しています。「主はその目の前で私の義にふさわしく手の清らかさにふさわしく応じた。」

でもダビデと他の人には一つ明らかな違いがあると言う人もいるでしょう。神が彼を選び、その目的は王にすることだったと。この繋がりに注意してください。イエスは 16 節でこう言っています。「あなたがたが私を選んだのではない。私があなたがたを選んだ。あなたがたが行って実を結び、その実が残るようにと、また、私の名によって願うなら、父が何でも与えてくださるようにと、私があなたがたを任命したのである。」（ヨハネによる福音書 15 章 16 節）

聖書は、神が実を結ぶという目的をあなたに与え、イエスの名の元に求めれば、父なる神が与えると約束していると言っています。それだけでなく、私たちは王なのです。聖書によると、キリストは「私たちを御国の民とし、またご自分の父である神に仕える祭司として」くださいました。（ヨハネの黙示録 1 章 6 節）

あなたはイエス・キリストを信じることで、イエスの十字架上の償いにより義であり王に奉仕するすばらしい人間だとされるのです。神の子を信頼した瞬間に、あなたの義はダビデの義に勝ります。あなたはその資格に値するだけでなく、資格を失うことはありません。神はあなたに資格を与え、誰もそれを取り去ることはできません。誰も、です。

人は、善意のある人や模範的な人でも、神は与えないとか、人が神を呼ぶ声を聞いていないと言うでしょう。でも聖書はそうは教えていません。マタイによる福音書 7 章 7～9 節と 21 章 22 節、ヨハネによる福音書 14 章 13 節と 15 章 7 節、ヤコブの手紙 4 章 2 節、Ⅰヨハネによる福音書 5 章 14 節には、信仰があれば与えられると書いてあります。

「待つ人には良いことが起こる」という諺を聞いたことがありますか？ 聖書にそう書いてあるでしょうか。いいえ、書いていません。聖書は、すべての事は真に神を愛する者のために起こると言っていますが、もう一つ重要な事を付け加えています。それは「ご計画

に従って」です。(ローマの信徒への手紙 8 章 28 節)神の目的に適っていなければ、それは良くない事なのです。

問題は、多くの人が待つことができず、自分の人生の神の目的を知らないか、無視していることです。だから物事が自分の希望や、これまでの人生経験に反すると、聖書の教えを自分の人生経験や、論理に合わせて捻じ曲げようとします。それでは上手くいきません。聖書は論理的なものではありません。超自然的なものです。何よりも自然的で、予想以上のものです。これまでも、これからもそうです。
多くの人と違って、ダビデは待つことができました。彼は約 15 年も待って、ようやく王になると言いましたが、まだ長い道のりが残されていました。王になる前に、邪魔をしていたサウルに命を狙われたのです。ダビデにはサウルを襲うチャンスが何度もあり、サウルを簡単に殺せる絶好のチャンスも 2 度ありました。でもそうしませんでした。神が手を下されるのを待っていたのです。

ダビデは詩篇 40 篇2節(英語版 1 節)でこう言っています。「私は耐えて主に望みを置いた。すると主は私に向かって身を乗り出し私の叫びを聞いてくださった。」あなたが待つとき、人生の創造主があなたを神の物語に書き込むことができるのです。

第二の意志は、「神に呼び掛けて、忍耐強く待つ」ことです。あなたは、神に与えられるようにしなければなりません。

第三の意志:愛
1 節「主よ、わが力よ、私はあなたを慕う。」
ダビデの行いの理由を彼に尋ねたら、彼は自分の生い立ちから話し始めるでしょう。
きっとこんな事を言ったに違いありません。「私が若かったとき、神は偉大な預言者のサムエルに、ベツレヘムにある私の父の家まで行って王のダビデに油を注ぐようにと言われました。既に王がいたにも関わらず、です。奇妙でした。そして私が呼ばれていないいけにえの儀式の間に、サムエルは私の兄弟を無視して父に私を呼ぶように頼みました。家の外で羊の世話をしていたからです。私が行くと、サムエルは大量の油を取り出して、私の頭に注ぎました。そして更に不思議なことに、突然聖霊が私に降りてきて、今までになかった力を授かりました。」聖書には、実際にそういう事があったと書かれています。

でもこの後に、ダビデに対する反感が大きくなります。サウルは彼を憎み、殺そうとします。サウルの軍隊が彼を追いかけ、ダビデは何年も町から町へと逃げ回らなければなりませんでした。ダビデは疲れて、降参したと思うかもしれません。そして「神よ、頼み事があれば言いなさいとおっしゃいましたね。南の地中海に素敵なコテージをもらえませんか。誰にも見つからない人里離れたところに」と言ったのではないかと思うでしょう。でもそうはしませんでした。ダビデは決して諦めなかったのです。
そしてそもそもの始まりや、油を注ぐことや、与えられた力は神が企てたものですが、ダビデにも自分の物語を書くことができました。なぜなら彼には逃げるという選択肢があったからです。羊のところに戻り、家で寛ぎ、隠れていることもできました。

あなたも今、隠れている所から出て、主に仕える時なのです。
質問:あなたは、何年もやっているのに、何も変わらないばかりか、時には事態が悪くなっていると感じたことはありますか。

ダビデは、困難な状況にあっても、決してそう考えませんでしたし、あなたもそうあるべきです。もしダビデに彼の行いの理由を尋ねたら、こう答えるでしょう。私は神を愛しているからです、と。

もしあなたが今やっている事の動機が愛でないのなら、自分の内側をよく見たほうがいいでしょう。
もし教会に来て、愛のために奉仕していないなら、愛のために人と結婚していないなら、愛を持って子育てをしていないなら、たとえ世俗的な仕事であったとしても愛のために職場に行っていないなら、失敗するか燃え尽きるかのどちらかでしょう。

ダビデが神を省みずに民の数をかぞえて、調査したとき、そして既婚女性を自分の楽しみのために連れ去ったとき、彼は確かに神や他の人への愛を後回しにしました。その時、失敗したのです。でも、そんな失敗にも関わらず前に進み続けたのは、何があっても神の元へ戻り神を愛したからです。神を愛し、神に仕えるために神の元に戻ること、これこそ神が望んでいることなのです。
神がダビデの王座を永遠に守ると約束すると言ったのは、ダビデが完璧だったからではなく、その王座の上にイエス・キリストを見ていたからです。それは神の計画と愛のためだったのです。ダビデの王座から恩恵を受けるのは誰でしょうか。神が愛した全ての人たちです。
試練が大きいほど、神を信頼しなければならないと言いました。でももし愛が理由でなければ、あなたは全ての試練に恐怖を抱き、諦めたいと思うかもしれません。恐らくそうなるでしょう。

マタイによる福音書 11 章 28 節で、イエスはこう言っています。「すべて重荷を負って苦労している者は、私のもとに来なさい。あなたがたを休ませてあげよう。」この後に何と言うか分かりますか。「私に学びなさい。」です。私の行いの理由を、私から学びなさい、ということです。なぜイエスは十字架に掛けられたのでしょうか。神と私たちを愛していたからです。

信頼は、あらゆる座る台の基礎になるものです。でも愛は四次元です。下にも上にも、過去にも未来にも今ここにもあります。とても広大であると同時に、小さくもあります。とてもパワフルで、とても優しいものです。有限でも、無限でもあります。遍在します。あなたは愛によって造られ、愛のために造られ、あなた自身が愛に力を与えるように造られています。それは一番神らしい行いです。なぜなら神は愛だからです。愛があなたの目的です。愛こそ神があなたの人生に与えた目的で、あなたのあらゆる行動の原動力となるべきものです。そうしたらあなたは神と神の人々を愛し、神を信頼して呼び求めることでしょう。
第三の意志は、私は神と神の人々愛する、ということです。

第四の意志:神に感謝する
49 節「それゆえ、主よ 私は国々の中であなたに感謝し御名をほめ歌おう。」

ダビデが言った最後の「必ずする(I will)」のは―「感謝」です。感謝する、とうのは何かが達成された後にすることだと考えがちです。でも感謝するということは、自分に恩恵をもたらすものを

意識し、価値を見出すことで、評価を伴います。それはあなたと世界に対する神の客観的な愛への主観的な反応です。

美味しい食事を食べ始めたら、食べている時から感謝が始まります。でもその前の準備の段階、つまり匂いを嗅いでいる時から感謝は始まっています。そして更に、その食事の時間が来ることを知ったときから、感謝は始まっているのです。そして食事を思い出してまた感謝します。感謝とは時間を超越したものです。

神を信頼し、これからも信頼しつづける私は、あなたの愛に感謝しますと言うときに、あなたの感謝は示されます。
ダビデは敵が倒されたとき、そして次の大きな敵である死が来るときですら、神の力によって感謝を表しました。

感謝は、主の日に完全な勝利が手に入ることを知っている人にとって正しい反応です。その日に敵が倒されるからです。マタイによる福音書 8 章 29 節には、悪霊たちも私たちの復讐者であるイエス・キリストが来るときが裁きの日だと知っていると書かれています。主なる神と神の人々の敵全員に罰が下るのです。彼らが報いを受ける日です。「最後の敵として、死が無力にされます。」(コリントの信徒への手紙一 5 章16節)

ダビデは地上での勝利だけでなく、将来の救い主による永遠の勝利も見ていたのです。聖書が書かれる前から、彼は人生の終わりにこの詩篇を暗唱すれば、死を含む全ての敵から救われることを知っていました。それはイエスを待ち望んでいたからです。

このことは、詩篇 18 篇 2 節が新約聖書のヘブライ人への手紙に引用されているので、すべてイエスについて書かれていることが分かります。

イエス・キリストを信じる者は、ダビデと彼の子孫と共に、主が準備してくれた宴会の席に座り、食事をする王たちの中に数えられます。これはダビデだけでなく、私たちの勝利の日でもあります。

重要なポイント:全ては救いという目的に向かって動いているのです。

勝利は、神が救済のために人々に与えるだけでなく、他人の救いに影響を与える人にも与えられます。

あなたも人生で勝利を手に入れられます。死後に蘇り、永遠に支配するイエス・キリストを信じるなら、あなたも神と共に座る人の一人に数えられます。今日、あなたの神であり救い主であるイエス・キリストを信じましょう。

第四の意志: 主が既にしてくださったこと、そして永遠にしてくださるであろうことに、今日感謝しましょう。

国々の中で神を賛美し、私たちの岩であるイエス・キリストに感謝しましょう。

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール:cc@tokyobaptist.org
もしくは:https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
(毎週届くメールニュース)
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https://t-b-c.us/sg3622jp

★クラス 101
教会員になるためのクラス
9 月 10 日 (土) 13:30~17:30
★クラス 201
クリスチャンとして成長するクラス
9 月 24 日 (土) 13:30~17:30
https://t-b-c.us/classes

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

スモールグループ参加申込み
http://t-b-c.us/sgsu

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2018